

日付:2016年3月13日／聖書:ヨハネによる福音書18:15～27

説教:「三たび我が主を否む」

イエスが捕らえられていく。イエスの逮捕劇には、当時のユダヤ社会を揺るがす発言、行動があり、それは法を犯しての逮捕である。／辺野古の座り込みがある。常に警察とにらみ合う。ゲート前に座り込み、埋め立て工事阻止のため、作業車、ダンプカーを入れないために座り込む。不法な座り込みとして、機動隊による排除、時に逮捕者が出る。私たちキリスト者は、この不法行為をどう見るか？ ここで大事なことは、「法律と倫理」は時に相反するという。倫理とは、人として守り行うべき道。善悪の判断において普遍的な規準となるもの。道徳。モラルという意味があり、辺野古に基地は造らせない、人殺しの軍事基地は造らせない、子や孫に基地のない沖縄を残してあげたい、アジア諸国にこれ以上脅威を与えない、罪を犯さない。その倫理に基づいて辺野古の座り込みはある。クリスチャンであれば、その倫理にキリストを付け「キリストの倫理」に基づいて「辺野古の問題」を見る必要があろう。イエスの逮捕にその視点を見たい。

さて、イエスの逮捕後をのぞき込むペトロがいた。結局ペトロは、イエスを三度否定する。何故か？ 自分も捕まるのが怖かったのか？ ペトロは、「あなたのためなら命を捨てる」とまで言う。ペトロはイエスを捕らえに来た連中と剣を持って戦う準備をしていた。命を投げ出す覚悟を持っていた。しかし、「剣をさやに納めなさい」と戦うことを阻止される。ペトロは、戦わずに捕らえられたイエスの姿に疑問を持った。キリストが戦わずに捕らえられ、下役どもに平手で叩かれていく。そういうみじめなイエスの姿にペトロは躓いて行く。鶏が鳴く前に三度「主を否む」。

「三たび我が主を否む」ペトロにイエスのさらなる言葉に耳を傾けたい。復活後のイエスはペトロに言う。「私を愛するか、私を愛するか、私を愛するか」(21:15以下)と。それは何か三たび主を否むことをしたペトロの一つ、一つの言葉を吹き払うかのように。主を否む罪を一つ、一つ赦して行くかのように、イエスは、「私を愛するか・・・」と問いかけてくる。ペトロの「主を否む」行為は、人ごとではない。私たちは三度どころではないだろう。そのような私たちもまた、赦されている者として、主に立ち返るものでありたい。時に、長い信仰生活の中で、主を否むことはあるもの。しかし、主は私たちにも立ち返ることを願っておられる。イエスの「わたしに従ってきなさい」とはどういう事なのかを深めながら。(神谷)